



社会福祉法人 薄光会 広報紙

きらめ



きらめ 第22号



各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成22年7月10日

法人本部：〒299-1607

千葉県富津市湊 1070-3

TEL 0439-67-3711

豊岡光生園：〒299-1742

千葉県富津市豊岡 3535-1

0439-68-1711

三芳光陽園：〒294-0825

千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園：〒299-2854

千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

湊ひかり学園：〒299-1607

千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551~2

ケアホームCOCO：〒299-1616

千葉県富津市湊 1070-3

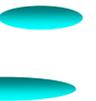
0439-67-3380

太陽のしずく：〒299-1607

千葉県富津市湊 1070-3

0439-67-3711

風と語ろう



『J支援有難い』や『ごまかす』

混乱期にもかかわらず、別表通りの決算を終え新しい期を迎える事ができました事は、ひとえに皆様の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

光陰矢の如しとは申しますが、当法人も設立以来はや三十年が過ぎました。前年度には、わが国、議会制度始まって以来の本格的な政権交代もあり、影響がこの業界にも徐々にもたらされようとしております。

多額の国債を抱え予算の大半を更なる国債に頼る政府は、「障害者自立支援法」を廃止し、NPOやコミュニティで支える「新しい公共」による福祉を提唱しております。増え続ける社会保障費の一端を民間のコミュニティやボランティアに肩代りさせる「弱者を犠牲にする財政再建策」以外の何もでもございませぬ。

悪法と云われた障害者自立支援法に示した一割の利用者負担金は廃止しても、それにも増して当事者の自助、共助による負担が要求される社会になる事は必定です。国家デフォルトの危機を目前



に、ある意味、止むを得ない措置であるかも知れませんが。辛抱しなければ為らない時でもありましよう。しかし、政府の「庸(よう)として定まらぬ福祉政策」にはいささか不吉な予感を覚えます。

平成二十二年五月十七日の朝日新聞朝刊に、精神科医や臨床心理士ら専門家による初の実態調査が発表されております。

『都心のホームレスの三割超が知的障害者、四割以上が精神疾患者』とあります。

「周囲に障がいが理解されず、人間関係が上手く結べない事で職を失う等、「生きづらさ」が路上生活に繋がる。ホームレス施策に障害者支援の視点が必要」と調査チーム代表精神科医森川すいめいさんは指摘しています。

設立以来、この法人に一貫して流れる思いは、「親亡き後」も利用者が路頭に迷う事無く、生涯を全うできる支援システムを完成させる事です。これこそが、厳寒の時代に身を削り法人を支えて来た亡き親達の魂の叫びでもあり、長期間にわたり、ご支援下さる皆様のお気持ちでもあろうかと存じます。



この思いをプライオリティに私達はやって参りました。障害者自立支援法で一時苦境に立たされましたが、皆様のご支援と職員の努力でこの難関も切り抜ける事が出来ました。

まさに「親亡き後」その時を迎え、しかも、当該政策が定かでない今、背伸びをして設立時のあの辛酸を後継者に味わせる愚は避けたいと思っております。

山崎幸男



学園新聞



「ジエットタオル導入しました！」

平成二十二年三月六日、当学園にコンビニや高速道路のサービスエリアのトイシでおなじみのジエットタオルが設置されました。食堂に一台、トイシに三台、計四台で、ホテューは大きめ、温風・冷風も出て、殺菌もしてくれる優れたものです。

設置当初は、使用される皆さんは「どのようにして使うの?」と戸惑った様子でしたが、慣れるにつれて生活の一部に受け込んでいき、今では上手に使いこなしています。

ただ、このジエットタオルの作動音のような大きい音が苦手な方もいて心配していましたが、ほぼ「気遣いはいらなかったようです。」



感染症対策、ペーパータオルのコスト削減で導入したジエットタオルですが、利用者の皆さんの(安心できる生活)を守るために大いに力になってくれるものと思っています。定期的なメンテナンスを心がけ、長く活用していきたいです。

(加藤)

「美味しいお米と××を期待して」

「ケロケロ・・・」蛙の音が賑やかになった春先、湊ひかり学園では今年で二回目となる田植えに向け準備を始めました。今回は昨年に比べ約3倍、作付面積を増やし、黄金色に輝く稲穂を田んぼ一面になびかせるべく、汗を流しながら頑張りました。けれども作業は順調には進まず、地域の方々のご指導ご協力をいただきながら、紆余曲折を経てなんとか周りと変わらぬ水田となり、五月に苗を植える事が出来ました。

列は曲がっていますが、皆で力をあわせた苗は元気に育ってくれると思います。秋の収穫を楽しみにしつつ、「刈り取りは手で?」「天日干しの準備は?」と今から心配しているメタボ予備軍の私、美味しいお米が出来る事が第一なのですが、実を言うと、汗を流してお米作りを行う事で、お腹がへこむのではないかと、密かに期待もしているんです。さあ、どうなる事でしょうか?

(能重)



「鉄棒を設置しました！」



大・中・小と3つの高さの鉄棒を園のグラウンドに設置しました。利用者みなさんも興味深々です。みんな揃って、はい、ポーズ!

「新職員紹介」



四月より、湊ひかり学園に勤めております中後貴司です。はじめまして!

約二ヶ月が経ち、職場の雰囲気にも慣れ、利用者の皆さんにも顔を覚えてもらえるようになりました。今はもう、毎日が勉強! という心境です。

日々精進を心がけ、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願致します。

『開園二十周年』

六月一日、開園二十周年記念ということで、富津市にある『さとみ寿司』さんが三芳光陽園まで出張して下さり、お年寄りのみなさんの前で江戸前のお寿司を握って下さいました。

マグロ、中トロ、ホタテ、甘エビ、玉子に旬の白身魚。ネタケースには新鮮なネタが並びました。

さとみの旦那さんがお寿司を握り始めると、その前にはひっきりなしに様子を探りにお年寄りたちが訪ねてきました。お年寄りのみなさんは数日前から楽しみにされていたようで、「明日俺たち、寿し食うんだ」と、入所者の賢治さんは職員の前を話して見せてくれました。

いざ寿司桶がテーブルの前におかれると、みなさんは、美味しいお寿司を次々と口に運び、たくさん笑顔を見ることができました。



開園から区切りの二十周年。

「お寿司を食べさせてあげたいですね」という栄養士の小倉さんの発案で始まったこの企画。

お年寄りからの声かけに答えながら、手際良くお寿司を握ってくれる旦那さんと、その脇で寿司桶を並べてくれる奥さんのほのぼのとした雰囲気、会場全体に広がり、なんともいい感じの開園記念となりました。

入所者の顔が笑顔だったのは言うまでもありませんが、職員も同様でした。

さとみ寿司の旦那さんと奥様、本当にありがとうございました。機会がありましたらお願いします。



※おかゆや刻み食、ミキサー食のお年寄りには、同じネタを提供いただき、栄養士の小倉さんがきれいに盛り付けてくれました。これは、またこれで、おいそうですよ。

(行事担当 田丸)



園だより

名水湧水【志駒】

JOBチーム【ありんこ土木】は、勇姿ぞろいの男性集団である。

ある日、夕食に出す旨い味噌汁のために志駒へ名水を汲みに行った。この日は雨。しかも、もう春だというのに吐く息が白くなるほどの寒さ。水汲み場に到着。普段なら我先に車内から出てくるが、今日は、出てきたのは数名。職員の「はいい！ 全員降りますよ！ 水汲みますよ」の声で渋々みんな降りてくる。

名水の汲み場は、シンクが腰ほどの高さになっており、栓のない蛇口からこんこんと水が出ている。シンクに二十リットルのポリタンクを置き水を入れる。すると岡田くんが三分の一水が入ったか入らないかでポリタンクを持ち上げ取り出そうとする。「まだまだ入るよ」の声に納得いかない様子でまたもどす。



どうやら、ポリタンクがいっぱいになると重たくて大変だと考えたらしい。ほとんどポリタンクは満タンになった。岡田くんはみんなの影に隠れている。仕方なく、剛腕の中村さんをお願いする。中村さん、軽々と持ち上げ車に積んだ。

次のポリタンクは金子さんをお願いした。しかし金子さんは身長が一五〇㎝ほどの小柄。どう考えても一人で持つには厳しい。そこで、金子さんがどうするか様子を見ていくと、田中さんを呼びにいく。田中さんは、ここぞという時にみんなが頼りにするやさしい心の持ち主。職員は『やはり田中さんか…』と思う。田中さんがシンクからポリタンクを降ろすと、すかさず金子さんが、『ありがとう。ここからは俺の出番』とばかりに、



良いとこ取りでポリタンクを運ぶ。

光生園に着き、車から厨房へポリタンクを運ぶのは近藤さん。普段は、用務職員と一緒に仕事をなんなくこなす専職人さながらの人。

『よし！ 運ぶのは任せておけ！』とばかりにポリタンクを右手で持ち、左腕をバランスを保つために挙げる。だが、タンクの重さに振り回され、直線で5mの距離を半円描き大回りしてしまふ。なんとか全部運び入れた。

夕食時、厨房さんが

「今日の味噌汁は、ありんこ土木のみんなが汲んでくれた水で作ったんですよ。」

と紹介した。ありんこ土木のみんなはポーカーフェイス。心の中は誇らしげか……。

はたまた、

二度と行かないと思っているのか……。

(Y)



水をくみ そして運び



最後に お届け



太陽のしずく

「みんなが通じ合おうよ」

それは、今年度の和光保育園での実習が始まり、一回ごとに調子を上げてきた、五月半ば過ぎのできごとでした。

その日の依頼されたお仕事の内容は、『乳児棟周辺の草取りと落ち葉掃き』でした。今では得意なお仕事のひとつですから、皆、張り切って、けっこうな速さで、とんどんすすんでいきました。

抜いた草の小さい山がいくつかでき、掃いた落ち葉の大きな山ができました。お仕事が一段落したころ、数人の子どもたちがやってきました。子どもたちは、落ち葉の山を見つけると、目を輝かせました。

子どもたちは、落ち葉の山に飛び込むと、あたりに落ち葉をまき広げて歓声を上げました。実に楽しそうです。皆がきれいに掃いたところには、また落ち葉がさんさんに散っていました。



いつもなら、子どもたちの遊ぶ様子を微笑んで見ている「仕事人」たちですが、その日は違いました。皆それぞれ、顔をくもらしていたのです。「.....」

皆の気持ちに気づいた私は、わざと明るく言いました。

「うーん、子どもたちが楽しそうに遊んでいるんだったら、いいんじゃない。」

「.....」

「さーっ、もーいっかいやる！ つづけよう！」

「.....」

けれども、皆、納得がいかないのか、くもった表情を崩さず、無言で子どもたちを見ています。

私は、皆と子どもたちとの関係がまずいことになるのではと、はらはら、どきどきしました。

そのとき、保育士さんがやってきて、子どもたちに言いました。

「あーあっ。せっかく太陽のしずくさんたちがきれいにしてくれた場所なのにー。」

それだけ言うと、保育士さんは去っていきましました。

子どもたちは、たがいに顔を見合わせ、目の前にいる太陽のしずくの「仕事人」たちを見ました。

「仕事人」たちのくもった顔と、子どもたちの困ったような顔が出会いました。

子どもたちは、いっせいに走り出しました。

「あの人たちがやってくれたんだって！」走りながら、ひとりの子が言いました。

「自分たちがやられたら、いやだもんねー。」もうひとりの子がこたえました。



子どもたちは、ほつきやちりとりを持って、ばらばらばらっともどってきて、自分たちが散らかした落ち葉をかたづけ始めたのです。

子どもたちを微笑んで見ているいつもの顔に、皆の顔が変わっていくのを、私は見ていました。

子どもたちと「仕事人」の皆は、直接に交わした言葉こそなかったけれど、たしかに気持ちと気持ちが行きかって、心と心で通じ合ったのです。その瞬間に居合わせることができたのです。熱いものが湧いてくるのを感じました。

* * *

私は、自分が分別臭く、訳知り顔の大人を演じていたことにも気づかされ、反省しました。職員が必要以上に介入するのではなく、職員同士が伝え合っておしまいにするのではなく、子どもたち同士、太陽のしずくの皆と子どもたちが向き合う場面や、きっかけを作ることこそ大事なのだ、学んだのです。とても素敵な一日になりました。



寺久保 陽子

Pick up ジョブチーム『De・IK』



和光へ実習に行っている仲間にお弁当を届ける光生園の桑田さん。和光の子どもたちに、「愛してるよー」と声を掛ける。



石井さん、土本さん、安田さん、加藤さんも和光にはおなじみの張り切り De・IK 仕事人だ。和光2階の情報室（職員室）までお弁当を運ぶ。鈴木真廣園長が、彼らのために階段に手すりをつけてくださった。

COCO de COCO



やみつきになりそーな

カラオケボックスの巻き

ある休日の朝、恒例の住民会議が「のどか」で開かれた。議題は、「本日の過ごし方」。私こと庄司は、議事の途中で、住民から出されるであろう動議を警戒していた。それは、

「ラーメン食べに行くー！」

という圧倒的多数の意見である。この動議は、誰から出されるのか、いつ出されるのか、まったく予測不能なのである。しかも、ひとたび出されると雪崩を打って全会一致で可決されてしまうのだ。ただでさえ「政治と金」ならぬ「食事とカロリー」が取りざたされている昨今、「毎週のようにラーメンを食べに出かけている」と疑惑を持たれている「のどか」である。場合によっては、議長庄司の辞任くらいではすまない。



はらはら、どきどきの私庄司の心配をよそに、本日は、きわめて妥当な意見に落ち着いたのである。



いわく、「館山ジャスコ」で

買物」との議決であった。ホッとして、丸いお腹

をさする私庄司。

一路南下する車中では、偶然にもラジオから流れる「サザエさん」のテーマ曲に、この歌が大好きな成江さんを中心に大盛り上がり。次々と好きな歌が飛び出し、車中はカラオケボックス状態に。「えーい、ままよ」。この勢いによって、

「じゃー、カラオケ行く?」

と提案すると、皆いっせいに、「行くー! 行くー! 即決、針路変更! カラオケ店に繰り出しまし



た。皆十八番の曲を持って、いるらしく、次々と好きな歌の注文が。十八番のあとは、懐かしい童謡に、唱歌にと移っていく。

さすがに歌い疲れたのか、夕食の買物に間に合うように帰路についた。皆、満足そうな顔をしているので、「今度の休みはどつするか、考えておこうか。」「言葉に、「今度は、伊東さんとカラオケに行く」と即座に、きっぱりと。

「そんなに楽しかったんだ?」と私庄司。

皆、一斉に、

「うん! 楽しかった!」

*

*

*



この話には、後日譚があるので。次の休日、予定通りというか、あの余韻の勢いでというか、伊東さんと「のどか」の女性軍は、カラオケに出かけました。

実を言うと、前日に、電話が鳴って、成江さんのお母さんから一緒にお出かけの誘いがあったのですが、成江さんはお母さんの誘いを断って、お友達とのカラオケを選んだのです。お母さんは、がっかりなさったようでした。

もちろん、成江さんたちは、カラオケを楽しんできたそうです。でも、帰りの車中で成江さんの口から、ぼそっとこんな言葉がもれたのです。

「お母さんの誘い断ってよかったのかな?」

その言葉は、「のどか」の皆との楽しい時間と、お母さんの誘いと、どちらにしようかと、本当に悩んで答えを出したということが分かる言葉でした。「のどか」の皆とお母さんと、どちらも大好きな成江さんの内面をほんの少し見せてもらった瞬間でした。



(庄司・鳥居)

ひかり通信

『毎日が楽しい新人です』

新潟県佐渡市で生まれ、両親が福祉施設で働いていたことで「福祉」に興味を持ち、松戸市の大学の介護福祉科で学びました。卒業後は流山市の老人ホームで働き、結婚を機に鴨川に移り住みました。就職をして二カ月ですが、昼休みに利用者さんと過ごす時間が嬉しくて職場に来るのが楽しみです。

翔太さんや成樹さんとのトランプゲームに淑子さんや美奈子さんが加わると、女性らしい笑い声やおしゃべりでにぎやかさが増してきます。利用者の方のかかわりの中で毎日色々な事に気づかされています。

この今の気持ちを忘れずに、何年経っても利用者の皆さんに対して変わらぬ支援をしていきたいと思っています。

(池澤)



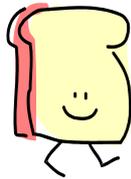
『気分は芸能人?』

いざ、今日もひとたび学園の門を通ると、自分が芸能人になった様な気分になります。

「今日の散歩は一緒?」

「今度はいつ送迎に乗って来るの?」

「お昼一緒に食べよう!」



毎朝とびっきりの笑顔で私を迎えてくれる利用者の方々に囲まれて過ごす日々は、今までに感じたことのない「嬉しさ」の連続です。「送迎バスの添乗で行く」「昼食を同じテーブルで食べる」など日常的な事も、私にとっては利用者の方と過ごす事がとても大切な楽しい時間です。二十四年自分が生きてきた時間の中で正直、こんなにも充実している「時間」があるんだなあと感じた事は今までにありませんでした。利用者の方と共に「過」し、新しい発見があるたびに胸の奥にむくむくと嬉しさが湧いてくるんです。



様々な縁と多くの方のご協力があり、自分のこれからの人生に「元気」と「居場所」を与えて下さったのは、利用者の方々の「笑顔」と「ことば」でした。未熟な自分ですが、一緒に過ごす楽しい時間を作って行きたいと思っています。

(右崎)



【編集後記】

野球賭博問題で、相撲界が揺れています。名古屋場所開催が危ぶまれていましたが、なんとか開催されることとなりました。賛否両論あるかと思いますが、この決定に胸をなでおろしている特養の施設長は私だけではないはずです。「もう相撲が見られない・・・」なんて真剣に悩んでいるお年寄りをなだめるのに、一苦労だったんですから。外は、じめじめした梅雨空です。ニコニコしているのは紫陽花だけですかね。

(法人広報委員会)